Syslog

- Syslog （1 ページ）
- ローカル ファイルへの Syslog メッセージ保存のイネーブル化 （2 ページ）

Syslog

Cisco UCS Manager はシステム ログ、つまり syslog メッセージを生成して Cisco UCS Manager システム内で発生した次のインシデントを記録します。

- 定期的なシステム操作
- 障害およびエラー
- 重大なおよび緊急な事態

syslog のエントリには、障害、イベント、監査の 3 種類があります。

各 syslog メッセージは、メッセージを生成した Cisco UCS Manager プロセスを特定し、発生したエラーまたはアクションの簡単な説明が提供されします。syslogは、定期的なトラブルシューティングやインシデントへの対処および、管理にも役立ちます。

Cisco UCS Manager は、syslog メッセージを内部的に収集し、記録します。syslog デーモンを実行している外部 syslog サーバにこれらを送信できます。中央の syslog サーバへロギングは、ログおよびアラートの集約に役立ちます。モニタされる syslog メッセージには、DIMM の問題、装置の障害、熱の問題、電圧の障害、電源の問題、高可用性（HA）クラスタの問題、およびリンクの障害が含まれます。

（注） FSM の障害、しきい値の障害、および未解決のポリシー イベントは、syslog サーバに送信されません。ただし、しきい値障害イベントに対して SNMP トラップが生成されます。

Syslog メッセージには、イベント コードおよび障害コードが含まれています。Syslog メッセージをモニタするために、Syslog メッセージ フィルタを定義できます。これらのフィルタは、選択した基準に基づいて syslog メッセージを解析できます。フィルタを定義するために、次の条件を使用できます。

- イベントコード別または障害コード別：モニタする特定のコードだけを含めるための解析ルールを使ったフィルタを定義します。これらの条件に一致しないメッセージは廃棄されます。
- シビラティ（重大度）別：特定のシビラティ（重大度）を持つSyslogメッセージをモニタするための解析ルールを使ったフィルタを定義します。syslog のシビラティ（重大度）は OS の機能に応じた個別指定が可能で、簡易的な概要からデバッグ用の詳細情報に至るまでのメッセージのロギングと表示が行えます。

シスコ デバイスでは、これらのログ メッセージを UNIX スタイルの syslog サービスに送信できます。syslogサービスは、簡単なコンフィギュレーションファイルに従って、メッセージを受信してからファイルに保存するか、出力します。この形式のロギングは、ログの保護された長期的な保存場所を提供できるので、シスコ デバイスでの最適な方法です。

ローカルファイルへのSyslogメッセージ保存のイネーブル化

手順

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 1	UCS-A# **scope monitoring**	モニターリングモードを開始します。
ステップ 2	UCS-A /monitoring # {**enable** | **disable**} **syslog console**	コンソールへの Syslog の送信をイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 3	（任意） UCS-A /monitoring # **set syslog console level** {**emergencies** | **alerts** | **critical**}	表示するメッセージの最低レベルを選択します。syslog が使用可能である場合、システムはそのレベル以上のメッセージをコンソールに表示します。 レベル オプションは緊急性の降順で一覧表示されます。デフォルトのレベルは Critical です。
ステップ 4	UCS-A /monitoring # {**enable** | **disable**} **syslog monitor**	オペレーティング システムによる syslog 情報のモニタリングをイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 5	（任意） UCS-A /monitoring # **set syslog monitor level** {**emergencies** | **alerts** | **critical** | **errors** | **warnings** | **notifications** | **information** | **debugging**}	表示するメッセージの最低レベルを選択します。モニタの状態が有効の場合、システムはそのレベル以上のメッセージを表示します。 レベル オプションは緊急性の降順で一覧表示されま

	コマンドまたはアクション	目的
		す。デフォルトのレベルは Critical です。 （注） **terminal monitor** コマンドを入力した場合にだけ、Critical より下のレベルのメッセージが端末のモニタに表示されます。
ステップ 6	UCS-A /monitoring # {**enable** | **disable**} **syslog rfc-5424-compliance**	RFC 5424 フォーマットごとの syslog 情報の書き込みを有効または無効にします。 （注） このオプションは、Cisco UCS ファブリック インターコネクト 9108 100G、Cisco UCS 6500 および 6400 シリーズ ファブリック インターコネクトにのみ適用されます。
ステップ 7	UCS-A /monitoring # {**enable** | **disable**} **syslog file**	syslog ファイルへの syslog 情報の書き込みをイネーブルまたはディセーブルにします。
ステップ 8	UCS-A /monitoring # **set syslog file name** *filename*	メッセージが記録されるファイルの名前。ファイル名は 16 文字まで入力できます。
ステップ 9	（任意） UCS-A /monitoring # **set syslog file level** {**emergencies** | **alerts** | **critical** | **errors** | **warnings** | **notifications** | **information** | **debugging**}	ファイルに保存するメッセージの最低レベルを選択します。ファイルの状態が有効の場合、システムはそのレベル以上のメッセージを syslog ファイルに保存します。 レベル オプションは緊急性の降順で一覧表示されます。デフォルトのレベルは Critical です。
ステップ 10	（任意） UCS-A /monitoring # **set syslog file size** *filesize*	最新のメッセージで最も古いものを上書きし始める前の、最大ファイル サイズ（バイト単位）。有効な範囲は 4096 ～ 4194304 バイトです。
ステップ 11	UCS-A /monitoring # {**enable** | **disable**} **syslog remote-destination** {**server-1** | **server-2** | **server-3**}	最大 3 台の外部 syslog サーバへの syslog メッセージの送信をイネーブルまたはディセーブルにします。

	コマンドまたはアクション	目的
ステップ 12	（任意） UCS-A /monitoring # **set syslog remote-destination** {**server-1** | **server-2** | **server-3**} **level**{**emergencies** | **alerts** | **critical** | **errors** | **warnings** | **notifications** | **information** | **debugging**}	外部ログに保存するメッセージの最低レベルを選択します。リモート宛先が有効になっている場合、システムはそのレベル以上のメッセージを外部サーバに送信します。 レベル オプションは緊急性の降順で一覧表示されます。デフォルトのレベルは Critical です。
ステップ 13	UCS-A /monitoring # **set syslog remote-destination** {**server-1** | **server-2** | **server-3**} **hostname** *hostname*	指定されたリモート Syslog サーバのホスト名またはIPアドレス。ホスト名は 256 文字まで入力できます。
ステップ 14	（任意） UCS-A /monitoring # **set syslog remote-destination** {**server-1** | **server-2** | **server-3**} **facility** {**local0** | **local1** | **local2** | **local3** | **local4** | **local5** | **local6** | **local7**}	指定されたリモート syslog サーバに送信される syslog メッセージに含まれるファシリティ レベル。
ステップ 15	UCS-A /monitoring # {**enable** | **disable**} **syslog source** {**audits** | **events** | **faults**}	次のいずれかになります。 • [監査（audits）] : すべての監査ログイベントのロギングを有効または無効にします。 • [イベント（events）] : すべてのシステムイベントイベントのロギングを有効または無効にします。 • **faults** : すべてのシステム障害のロギングを有効または無効にします。
ステップ 16	UCS-A /monitoring # **commit-buffer**	トランザクションをコミットします。

例

次の例は、ローカル ファイルの syslog メッセージのストレージをイネーブルにし、トランザクションをコミットします。

```
UCS-A# scope monitoring
UCS-A /monitoring # disable syslog console
UCS-A /monitoring* # disable syslog monitor
UCS-A /monitoring* # enable syslog file
UCS-A /monitoring* # set syslog file name SysMsgsUCSA
UCS-A /monitoring* # set syslog file level notifications
UCS-A /monitoring* # set syslog file size 4194304
UCS-A /monitoring* # disable syslog remote-destination server-1
UCS-A /monitoring* # disable syslog remote-destination server-2
UCS-A /monitoring* # disable syslog remote-destination server-3
```

```
UCS-A /monitoring* # commit-buffer
UCS-A /monitoring #
```

翻訳について
このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。